

7月26日(水) 全校集会 校長講話

本校は、前期・後期制を採用していますので、他の多くの学校と違って、1学期終了、通知表に一喜一憂そして夏休みへという流れではありません。しかし、明日から4週間弱の夏休みに入りますので、生徒の多くは浮き浮きしている状態でしょうか。

さて、私の「夏休み」に対する思いをこれから述べます。簡単にいうと、夏休みに対して私は「大嫌い」という思いと、「大好き」という思いのふたつが入り混じっています。

まず、なぜ嫌いなのか…。高校生の時、普通に学校の授業がある時は、午後4時から始まるサッカー部の練習は、日中に比べればかなり涼しい状態でできました。しかし、夏休みに入ったとたん、日中の練習に切り替わります。暑い中で半日、もしくは1日の練習となり、そこに遠方までの練習試合が入った折には、1日が終わるとグッタリで何もできない状態に…。私たちのころは、練習中に水を飲むとバテるという「伝説」があり、練習終了後は半ば脱水症状のようになっていました。

そんな状況は就職しても同じでした。社会科の高校教員になり、サッカー部の顧問になった私の夏休みの生活は、自分の高校生の頃とほとんど同じでした。毎日、グラウンドで指導するのは当たり前、そこに進学や就職のための補習指導が入ってくるので、通常の授業日よりハード。顔も腕も足も日に焼けて真っ黒になり、前から見ても後ろから見てもわからないと言われたほどでした。

夏休みになると自分の生活がハードになる。だから嫌い。

でもその反面、「夏休み大好き」でもあるのです。矛盾しているのですが、それは事実です。では、なぜ大好きなのか…。

夏休みのサッカー部の練習の最後に、体力トレーニングとして50mや100mのダッシュを選手に課すことがよくありました。30℃を超える中で、2～3時間の練習を終えたその段階でのダッシュは大変辛い。時に、顧問である私の顔を恨めし気に睨みつけ、ブツブツ文句を言っている選手もいました。

それとどこの高校でもやっている夏休み補習。暑くて勉強に集中できないがために夏休みになっているのに、学校に登校させられ朝から昼過ぎ、もしくは夕方までみっちり絞られる。志望理由書が作成できなかったり、面接練習で志望動機がすらすら言えなかったりして悔し涙する女子も、ときに男子も…。

しかし、夏休み明けになると、真っ黒に日に焼けた選手や面接練習がうまくいなくて涙した女子・男子が一回りも二回りも大きくなって2学期を迎えるのです。チャンスで決められなかった気の弱い選手がチームを引っ張ったり、面接練習で涙した女子・男子が模擬面接官役の先生の意地悪な質問にすらすらと答えたり…。夏休み前とは全然顔つきが違います。自信に満ち溢れているのです。このことは冬休みや春休みにはないと思います。苦しい夏休みを乗り越えてこそ、見違えるような成長があるのです。そういう生徒を見ることができる夏休み、大好きです。

以上が、私の夏休みが「大嫌い」であって「大好き」な理由です。

来月 23 日が夏休み明けの初日となります。そこでまた、全校集会が予定されています。その時に、一回りも二回りも大きく成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。

小幡 正樹